

# Q & A

腫瘍をめぐる Q & A

## Question 82

### 周術期の血栓予防について教えてください

畑 泰司

Taishi Hata

大阪大学大学院医学系研究科消化器外科学

## Answer

#### はじめに

周術期の血栓予防と言えば主として静脈系の血栓ということになる。大きくは深部静脈血栓症 (deep venous embolism : DVT) と肺血栓塞栓症 (pulmonary thromboembolism : PTE) に分けられるが、近年 PTE の原因の 90% 以上が DVT であることから、まとめて静脈血栓塞栓症 (venous thromboembolism : VTE) と総称される (図 1)。

Surgery Frontier 22(3) : 76-80, 2015

#### 疫学

以前の報告では諸外国においてわが国の VTE 発症頻度は低いと報告されていたが、近年は生活環境の欧米化などもありほとんど変わらないと言われている<sup>1)2)</sup>。

PTE はいったん発症すると、その死亡率は約 20% と高く、予防することが重要である。わが国でも 2004 年にガイドラインが作成され、その重要性が認知されることとなり、理学療法が広く普及して発症頻度は減少した。それによって症候性 PTE は 2003 年に

4.8 人 / 万手術であったものが 2006 年には 2.3 人 / 万手術まで減少した<sup>3)</sup>。しかしながら、その後は軽度増加傾向にある。

#### DVT の機序

DVT とは主に下肢の深部静脈が血栓によって還流障害をきたした状態である。血栓の形成には 1856 年にドイツの病理学者 Virchow が挙げた、①血流の停滞、②血管壁の障害、③血液凝固能の亢進の 3 徴が関与すると言われている。